

市民の安全・安心第一の市政へ



土木センター関連予算を増やして、住民要求の実現を

・・・「熊本市民連絡会」・地域住民のみなさんと一緒に、各土木センターへの要望を実施・・・



7月4日、身近な道路や公園・河川等の改善を求めて、地域住民のみなさんにご参加いただき、「平和と民主主義・くらしを守る熊本市民連絡会」と一緒に市内の各土木センターへの要望行動を行いました。

今回は、中央区・東区・北区より67件の要望が事前に届けられ、それぞれの土木センターで事前調査が実施され、対応について報告されました。(南区・西区関係は要望がありませんでした)

半数以上は今年度中に改善

【対応状況】	合計 67 件
対応済	4 件
対応予定	31 件
検討	14 件
不可	5 件
その他	11 件
調査未完了	2 件

対応済・対応予定に次年度実施予定を加えると37件が改善の予定です。(55%)

要望には、県が実施主体となるもの、県との協議が必要なものもありました。引き続き、県へも要望していきます。

日々の安全確保へ、速やかな対応が必要

道路・歩道の改善は、大多数が年度内に実施方向の予定です。

カーブミラーも、設置条件を満たしているものが多く、申請書を提出の方向です。すすめます。

公園の樹木剪定は、対応済または年度内に対応の予定です。

踏切の改善は、JRとの協議や多額の予算が必要となることなどから、改善が難しい状況です。

河川改修等では、健軍川・藻器堀川が一定の改善予定です。

寄せられた要望は、カーブミラー設置、道路の補修、橋の歩道改善、公園・街路の樹木剪定、道路や歩道・踏切の交通安全対策、河川の管理など、日々の暮らしの安全確保につながる身近な要望ばかりです。予算確保が改善には不可欠であり、機会をとらえ、土木センター関係予算の拡充を求めています。

引き続き、身近な地域の要求を気軽にお寄せください。

通学路のガードレール設置は急務

土木センター要望では、千葉県八街市の通学路における重大事故を受け、通学路の安全確保を求める意見が複数出されました。

通学路の安全では、事故後の7月9日に文部科学省より通学路の安全点検に関する通知が出され、

それを受け、市教育委員会健康教育課から各小学校へ、警察や道路管理者と連携した合同点検の7月中実施を求める通知(7月20日付)を発出しました。党市議団も、地域からの情報を市へ届け、通学路の安全対策を求めています。

日本共産党 市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 3階
発行：日本共産党熊本市議団
上野みえこ なすまどか

NO. 1244
2021年8月1日号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP：共産党 熊本市議団



検索



高校改革は、現場や関係者の理解・納得を前提に

「市立高等学校・専門学校改革基本計画」は、寄せられた声を反映して



現行の教育が大幅に変更となる「必由館高校の改革案」

【必由館高校改革の内容】

(1) 定員の大幅減

(現行)360 人 ⇒ 210 人へ

現在は、普通科 6 学級(240 人)・国際コース 1 学級(40 人)・芸術コース 1 学級(40 人)・服飾デザインコース 1 学級(40 人)で、合計 360 人定員です。

改革案では、グローバル研究科 5 学級(150 人)・芸術研究科 2 学級(60 人)の 210 人定員です。
*少人数学級で、1 クラス 30 人となります。

(2) 「普通科」をなくす

(3) 附属中学校を設置

中高一貫教育を実施し、附属中学校を設置します。
2 学級 50 人(1 クラス 25 人)

現行の定員を 4 割も減らす大幅な定員減は、少人数学級編成については理解できるものの、部活への影響や学校全体の活力への懸念もあるようです。

また、必由館高校の出願倍率は高く、県央の高校では上位です。定員減はますます入りにくい状況を生み出します。

「普通科」をなくすことについても、進路選択に揺れる時期、専門性重視に疑問の声があります。中高一貫教育への理解も深まっていないようです。

「意見を踏まえた」とは言い難いパブリックコメント

約 1 カ月行われたパブリックコメントには、14 人から 31 件の意見が寄せられました。

その対応は、①意見をもとに修正 4 件、②すでに記載 1 件、③説明・理解を求める 17 件、④修正しないが今後の参考 9 件、でした。

意見をもとに修正したものは、わずか 4 件で、市の考えに理解を求めるものが多数です。これでは、「言っても変わらない」となります。提出者が 14 名と少ないことも含め、市民の意見十分に反映されているとは言い難い状況です。

この間、市教育委員会がすすめてきた市立高校・専門学校の改革について、2021 年 3 月議会に「市立高校・専門学校改革基本計画」(素案)が報告されました。その後、パブリックコメント(3 月 25 日～4 月 26 日実施)を踏まえた修正案が 6 月議会に報告されました。

一方、6 月議会には「市立高校改革」に関わる 2 件の陳情書が提出され、必由館高校の改革内容に対して疑問・意見が出されました。

議会後の教育委員会議で、千原台高校・ビジネス専門学校の「改革基本計画」のみ策定され、必由館高校改革は引き続き検討となりました。

陳情の趣旨

「中高一貫教育への疑問、現場の理解」・「拙速にすすめない」

議会には、必由館高校同窓会と必由館高校講師からの 2 件の陳情がありました。

「同窓会の陳情」

- ① 必由館高校の中高一貫化はやめてほしい、
- ② 在校生・保護者・現場教員・同窓会への説明を行い、理解を得た上での改革をすすめること

「必由館高校講師の陳情」

- ① 令和 5 年度の開校予定に猶予を持つこと、
- ② 現場教員も加わった準備室を立ち上げること

市へ提出された「必由館生徒会長の要望書」

- ① 「高校再編計画素案は、現場の生徒や卒業生の声が入ってないので再検討してほしい
- ② 必由館高校に、普通科を残してほしい

現場への説明・理解が不十分なことが明らかとなりました。

6 月議会の教育市民員会で上野みえこ議員は、陳情の趣旨を十分踏まえ、拙速にすすめないよう求めました。